

ASPOS Newsletter

政治社会学会（ASPOS）会報



No. 3, (October, 2013)

理事長あいさつ

理事長 原田 博夫（専修大学）

2012年11月に、第2代理事長となりました。初代理事長である荒木義修（武蔵野大学教授）先生のように、学識と経験、先見性をもって学会運営ができる自信はありませんが、本学会の設立時の先駆性・方向性と志を忘れずに、役目を果たしたいと思います。会員の皆様のさらなるご協力をお願いする次第です。

本学会はそもそも、文理融合で、学際的（inter-disciplinary）あるいは超学的（trans-disciplinary）な問題意識と切り口を特徴としています。創立年の秋に開催された創立研究大会（2010年10月、早稲田大学）以来、この問題意識は継続しており、この視点は今後も忘れてはならないと思います。

とりわけ、総合的な認識の必要性・重要性は、2011年3月11日の東日本大震災を経験したことで、明白になったと思います。地震、津波、原発事故への連動・波及・衝撃は、日本社会全体のあらゆる分野に及んでいます。個々の自然現象の冷静な分析は必要ですが、それらが孤立しては、せっかくの蓄積が活かされません。各自然現象認識の共有化とそのすり合わせが必要です。さらには、社会的記憶や伝承などの文献記録の冷静かつ客観的な解明や蓄積も重要です。そしてそれらの自然現象解析とのつき合わせも見逃してはなりません。加えて、こうした緊急事態における政府・自治体の判断・決定・責任の事前想定が不可欠だけでなく、それを恒常的にチェックする見直し・改善プロセスも備えてはなりません。要するに、社会や自然の非常事態への行政の対応策は総合的でなくてはならない様に、研究者の側も、それぞれの分野の研究に没頭して自己満足しては、肝心の社会的ニーズが出現したときにおろおろと右往左往するばかりで、適切な処方箋につながる分析や解析を具体的に提示すること

ができません。われわれの研究は、平時の安定的な均衡状態だけを精緻に前提・分析の対象とするのではなく、緊急の不連続状態への適応をも見据えた幅広さと強靱さを待たなくてはならないのです。

本学会の会員は、既存のすでに確立した学問体系に安住することなく、新規の分野や手法などに果敢に打破する気持ちを秘めているはずです。本学会は、こうしたチャレンジングな問題意識と精神を共有することで、現在の安定的な社会構造の中で容易に認識のおよばない現象の解明を進めると同時に、現時点では簡単に予見できない事態への備えにも取り組みたいと思います。会員の皆様の勇気ある挑戦に期待します。

政治社会学会(ASPOS)第4回総会及び研究大会

2013年11月16日(土)・17日(日)

千里金蘭大学 3号館7階

主会場：3717号室

〒565-0873 大阪府吹田市藤白台5丁目25-1

2013年11月16日(土)－17日(日)に千里金蘭大学(阪急千里線「北千里駅」下車、徒歩約10分。御堂筋線「千里中央駅」下車。阪急バスで約10分。詳しくはこちらをご覧ください。<http://www.kinran.ac.jp/access/access.html>)にて政治社会学会(ASPOS)第4回総会及び研究大会を開催いたします。只今開催校及び諸先生方のご尽力をいただき準備をすすめておりますが、準備の関係上皆様に研究大会ご参加の可否を伺いたく存じます。

また、今回の会場近くには昼食を取る場所がないため、ご希望の方には昼食(約700円)を準備いたします。そのほか16日土曜日19:15より、懇親会(会費3000円、場所:千里金蘭大学3号館7階)も開催される予定です。奮ってご参加ください。

政治社会学会理事長 原田博夫

政治社会学会(ASPOS)第4回総会及び研究大会 プログラム

政治社会学会(ASPOS)第4回総会及び研究大会のプログラムが以下の様に出来上がりましたので、ご報告させていただきます。

第1日目：11月16日(土) 受付開始8:30

- 9:00 **開会の辞** 原田博夫 (ASPOS 理事長・専修大学教授)

- 9:10-11:40 **セッション1「社会デザインと政策実践」**
司会：奥井克美 (追手門大学院大学教授)
報告者1：三石博行 (千里金襴大学教授)「設計科学としての政策学基礎論・生活資源論」
報告者2：水垣源太郎 (奈良女子大学准教授)「An Interdisciplinary CBPR for Sustainable Agriculture: Its Challenges and Prospects」
報告者3：山口薫 (同志社大学教授)「シカゴプランによる新社会デザイン」
グループ・ディスカッション

- 11:40-12:30 **昼食** (3号館7階 3714号教室)・**理事会** (3号館7階 3712号教室)・**ポスターセッション** (3号館7階エレベーターホール)

- 12:30-13:00 **総会**

- 13:00-15:30 **セッション2「教育と政治社会」**
司会：石生義人 (国際基督教大学教授)
報告者1：柳平彬 (グループダイナミックス研究所所長)「“教育”基本法の中心に“志(こころざし)”を」
報告者2：森裕城 (同志社大学教授)「日本における新自由主義的教育改革の政治社会学的考察」
報告者3：河村能夫 (龍谷大学名誉教授・元副学長)「グローバル化時代における日本の大学改革と高等教育の社会的責務：京都における大学改革の経験から」

グループ・ディスカッション

- 15:30-15:45 休憩

- **15:45-16:45 基調講演**

荒木義修（ASPOS 会長・武蔵野大学教授）「神なき後の社会秩序と進化論：言語、恣意的約束事、遺伝子」

司会：油川洋（作新学院大学特任教授）

- **16:45-19:15 セッション3 「社会デザインと民主主義」**

司会：伊藤公雄（京都大学教授）

報告者1：住沢博紀（日本女子大学教授）「ドイツにおける民主主義」

報告者2：濱西栄司（ノートルダム清心女子大学専任講師）「自由空間と三つのデモクラシー-アクターの連携と新たな社会デザイン-」

報告者3：境毅（生活クラブ京都エル・コープ）「官僚支配の超え方」

グループ・ディスカッション

- 19:15- 懇親会（場所：3号館7階 3714号教室・会費：3000円）

第2日目：11月17日（日）受付開始8：30

- **9:00-11:30 セッション4 「政策提言型会員公募セッション」**

司会：新川達郎（同志社大学教授）

報告者1：金奈英（筑波大学大学院博士後期課程）「政治体制変化に伴う経路依存過程の制度分岐の考察-町内会・部落制度を中心に-」。

報告者2：尾形清一（名古屋大学研究員）「再生可能エネルギー事業における科学的不確実性と社会的合意形成の課題-風力事業のバードストライク問題を中心にして-」

報告者3：吉田龍太郎（慶応大学大学院博士後期課程）「政党再編と政策対立軸の模索-保守合同反対論とその後の日本政治-」

報告者4：西田 昌之（国際基督教大学研究員）「津波復興住宅における生活再編の格差-タイ国パンガー県タクワパー郡の事例-」

討論者1：森裕亮（北九州市立大学准教授）

討論者2：田浦健郎（NPO 法人気候ネットワーク事務局長）

討論者3：今村浩（早稲田大学教授）

討論者4：新川達郎（同志社大学教授）

- 11:30-12:15 昼食（3号館7階 3714号教室）・ポスターセッション（3号館7階エレベーターホール）

- 12:15-13:30 基調講演

布野修司（建築家・滋賀県立大学教授）「地域再生とコミュニティ・アーキテクト」

司会：中村知子（茨城キリスト教大学兼任講師）

- 13:30-13:45 休憩

- 13:45-16:00 セッション5 「生存環境と政治社会」

司会：佐藤 洋一郎（京都産業大学教授）

報告1：松久寛（京大名誉教授/社団法人縮小社会研究会代表理事）「縮小社会への道」

報告2：宮北隆志（熊本学園大学教授/水俣現地研究センター長）「環境破壊を経験した地域社会の再構築のための新たな統治と『水俣学』」

報告3：森壮一（文部科学省研究開発局）「フューチャー・アース構想の理念と成立過程」

グループ・ディスカッション

- 16:00 閉会の辞 原田博夫（ASPOS 理事長・専修大学教授）

ポスターセッション

日時 11月16日（土）11:40-12:30・11月17日（日）11:30-12:15

場所 3号館7階 エレベーターホール

報告1：アイスン・ウヤル（同志社大学助教） 「Science-Society Interface for Global Change and Sustainability Issues in Asia」

報告者2：村上沙保里（同志社大学大学院博士後期課程） 「公害と環境教育—公害資料館関係性へのヒアリングを通じて—」

報告者3：丸山聡子（同志社大学大学院博士後期課程） 「自治体とのパートナーシップによる実践型環境教育の展開」

報告者4：小田切康彦（同志社大学助教）「地方自治体における震災避難者支援策の実態とその形成過程：長野県及び北九州市の実例から」

報告者5：切東美子（同志社大学大学院博士後期課程）「医師の進路選択に影響を与える要因と医師不足について」

報告者6：切東美子・明神悟（オージス総研）「電鉄沿線の活性化(安心、安全のライフサポートネットワークの構築に向けて)」

報告者7：梅津庸成（新時代戦略研究所）「911 後の変革期における防衛力整備の在り方検討に関する経緯とその現代的意義」

【グループ・ディスカッションについて】

この研究大会から、出席者全員が各セッションに参加したうえで、各テーマについての認識を深め、発言を促す観点から、GD（グループ・ディスカッション）方式を取り入れることとしました。GD方式導入の趣旨は研究大会で会員相互の情報交換と発言の機会を高めることが狙い입니다。

■GD方式の概要

- 1、セッションテーマと報告内容に即して、GDを約60分間行う。
- 2、GDは約5人単位で構成する。
- 3、グループ分けは、大会受付で行い、参加者は一日単位で同グループに所属する。
- 4、セッションごとにくじ引きでグループリーダーを決める。但し、一度リーダーになった人はくじ引きに参加しない。
- 5、グループリーダーはGDの活発な運営が行われるよう努力する。また、最後にGDの内容を全体に簡単に報告する。

GD方式を学会に導入するのは恐らく日本の学会では初めての試みだと思います。大会参加者の活発な意見交換を企画した今回の学会をご期待ください。また、学会当日、GD参加マニュアルとGD評価にまた、学会当日、GD参加マニュアルとGD評価に関するアンケートを配布します。

【宿泊案内】

ご宿泊予定の方々は、ご自身での手配をお願い致します。千里金蘭大学の周辺の主なホテル（千里阪急ホテル、クリスタルホテル南千里）は、本日（9/30）確認したところすでに満室でしたので、千里金蘭大学へのアクセスが良いJR 新大阪駅やJR 大阪駅（梅田）、あるいは阪急千里線周辺のホテルへのお泊まりを推薦致します。

また、千里金蘭大学までは、阪急千里線「北千里駅」からは徒歩で約10分、地下鉄御堂筋線「千里中央駅」からは阪急バスで約10分となっておりますので、お間違えのないようお気をつけ下さい。

【アクセス】

千里金蘭大学 3号館7階 主会場：3717号室

〒565-0873 大阪府吹田市藤白台5丁目25-1

<http://www.kinran.ac.jp/access/access.html>



メインキャンパス 路線図・所要時間



各交通機関からのアクセス

阪急電鉄

- 阪急千里線「北千里駅」下車。徒歩約 10 分。

地下鉄

- 御堂筋線「千里中央駅」下車。阪急バスで約 10 分。
- 堺筋線から乗り入れて阪急千里線「淡路駅」経由、「北千里駅」下車。徒歩約 10 分。

大阪モノレール

- 大阪モノレール「山田駅」下車。阪急千里線に乗り換えて「北千里駅」下車。徒歩約 10 分。

新幹線

- JR「新大阪駅」下車。地下鉄御堂筋線に乗り換えて「千里中央駅」下車。阪急バスで約 10 分。

会員による著作出版

荒木義修会員

1. 제1-2장 ‘프로그램(설계)과학’과 문리융합의 진화론적 접근 [訳：荒木義修「‘프로그램(設計)科学’と文理融合の進化論的接近」第1-2章]

(所収文献)

한국사회과학협의회 (편). 융합 연구, 왜 그리고 어떻게 할 것인가. 법문사, 2013. 12. 30(예정) [訳：韓国社会科学協議会(編)『融合研究、なぜ、そしてどのように行うべきか』法文社、2013.12.30 刊行予定]

2. 인문학 및 사회/자연과학 연구자들의 협동에 의한 학제연구의 현황과 과제: 일본 지구연구소의 ‘오아시스 프로젝트’ 사례 [訳：中尾正義「文系と理系の研究者の協働による学際的研究の現状と課題—地球研オアシスプロジェクトの事例から—」(『政治社会論叢』創刊号所収論文)]

編集後記

学会の第3号のニュースレターの発刊となりました。今回のニュースレター発刊に際しましては、三石先生、井上夏樹様、その他諸先生方には色々ご指導・ご協力を賜りました。この場をお借りし心より御礼申し上げます。まだまだ至らない点があるかと思えます。皆様から何かご意見・ご要望があればいつでもご連絡下さい。お待ちしております。

(酒井英一 広報委員長)

ASPOS Newsletter [政治社会学会 (ASPOS) 会報]

No. 3 (2013年10月11日発行)

発行人：原田博夫 (理事長)

編集人：酒井英一 (広報委員長)

E-mail: sakaihk@kansai.ac.jp

ASPOS Newsletter

政治社会学会（ASPOS）会報



No. 3, (October, 2013)

理事長あいさつ

理事長 原田 博夫（専修大学）

2012年11月に、第2代理事長となりました。初代理事長である荒木義修（武蔵野大学教授）先生のように、学識と経験、先見性をもって学会運営ができる自信はありませんが、本学会の設立時の先駆性・方向性と志を忘れずに、役目を果たしたいと思います。会員の皆様のさらなるご協力をお願いする次第です。

本学会はそもそも、文理融合で、学際的（inter-disciplinary）あるいは超学的（trans-disciplinary）な問題意識と切り口を特徴としています。創立年の秋に開催された創立研究大会（2010年10月、早稲田大学）以来、この問題意識は継続しており、この視点は今後も忘れてはならないと思います。

とりわけ、総合的な認識の必要性・重要性は、2011年3月11日の東日本大震災を経験したことで、明白になったと思います。地震、津波、原発事故への連動・波及・衝撃は、日本社会全体のあらゆる分野に及んでいます。個々の自然現象の冷静な分析は必要ですが、それらが孤立しては、せっかくの蓄積が活かされません。各自然現象認識の共有化とそのすり合わせが必要です。さらには、社会的記憶や伝承などの文献記録の冷静かつ客観的な解明や蓄積も重要です。そしてそれらの自然現象解析とのつき合わせも見逃してはなりません。加えて、こうした緊急事態における政府・自治体の判断・決定・責任の事前想定が不可欠だけでなく、それを恒常的にチェックする見直し・改善プロセスも備えていなくてはなりません。要するに、社会や自然の非常事態への行政の対応策は総合的でなくてはならない様に、研究者の側も、それぞれの分野の研究に没頭して自己満足しては、肝心の社会的ニーズが出現したときにおろおろと右往左往するばかりで、適切な処方箋につながる分析や解析を具体的に提示すること

ができません。われわれの研究は、平時の安定的な均衡状態だけを精緻に前提・分析の対象とするのではなく、緊急の不連続状態への適応をも見据えた幅広さと強靱さを待たなくてはならないのです。

本学会の会員は、既存のすでに確立した学問体系に安住することなく、新規の分野や手法などに果敢に打破する気持ちを秘めているはずです。本学会は、こうしたチャレンジングな問題意識と精神を共有することで、現在の安定的な社会構造の中で容易に認識のおよばない現象の解明を進めると同時に、現時点では簡単に予見できない事態への備えにも取り組みたいと思います。会員の皆様の勇気ある挑戦に期待します。

政治社会学会(ASPOS)第4回総会及び研究大会

2013年11月16日(土)・17日(日)

千里金蘭大学 3号館7階

主会場：3717号室

〒565-0873 大阪府吹田市藤白台5丁目25-1

2013年11月16日(土)－17日(日)に千里金蘭大学(阪急千里線「北千里駅」下車、徒歩約10分。御堂筋線「千里中央駅」下車。阪急バスで約10分。詳しくはこちらをご覧ください。<http://www.kinran.ac.jp/access/access.html>)にて政治社会学会(ASPOS)第4回総会及び研究大会を開催いたします。只今開催校及び諸先生方のご尽力をいただき準備をすすめておりますが、準備の関係上皆様に研究大会ご参加の可否を伺いたく存じます。

また、今回の会場近くには昼食を取る場所がないため、ご希望の方には昼食(約700円)を準備いたします。そのほか16日土曜日19:15より、懇親会(会費3000円、場所：千里金蘭大学3号館7階)も開催される予定です。奮ってご参加ください。

政治社会学会理事長 原田博夫

政治社会学会(ASPOS)第4回総会及び研究大会 プログラム

政治社会学会(ASPOS)第4回総会及び研究大会のプログラムが以下の様に出来上がりましたので、ご報告させていただきます。

第1日目：11月16日(土) 受付開始8:30

- 9:00 **開会の辞** 原田博夫 (ASPOS 理事長・専修大学教授)

- 9:10-11:40 **セッション1「社会デザインと政策実践」**
司会：奥井克美 (追手門大学院大学教授)
報告者1：三石博行 (千里金襴大学教授)「設計科学としての政策学基礎論・生活資源論」
報告者2：水垣源太郎 (奈良女子大学准教授)「An Interdisciplinary CBPR for Sustainable Agriculture: Its Challenges and Prospects」
報告者3：山口薫 (同志社大学教授)「シカゴプランによる新社会デザイン」
グループ・ディスカッション

- 11:40-12:30 **昼食** (3号館7階 3714号教室)・**理事会** (3号館7階 3712号教室)・**ポスターセッション** (3号館7階エレベーターホール)

- 12:30-13:00 **総会**

- 13:00-15:30 **セッション2「教育と政治社会」**
司会：石生義人 (国際基督教大学教授)
報告者1：柳平彬 (グループダイナミックス研究所所長)「“教育”基本法の中心に“志(こころざし)”を」
報告者2：森裕城 (同志社大学教授)「日本における新自由主義的教育改革の政治社会学的考察」
報告者3：河村能夫 (龍谷大学名誉教授・元副学長)「グローバル化時代における日本の大学改革と高等教育の社会的責務：京都における大学改革の経験から」

グループ・ディスカッション

- 15:30-15:45 休憩

- **15:45-16:45 基調講演**

荒木義修（ASPOS 会長・武蔵野大学教授）「神なき後の社会秩序と進化論：言語、恣意的約束事、遺伝子」

司会：油川洋（作新学院大学特任教授）

- **16:45-19:15 セッション3 「社会デザインと民主主義」**

司会：伊藤公雄（京都大学教授）

報告者1：住沢博紀（日本女子大学教授）「ドイツにおける民主主義」

報告者2：濱西栄司（ノートルダム清心女子大学専任講師）「自由空間と三つのデモクラシー-アクターの連携と新たな社会デザイン-」

報告者3：境毅（生活クラブ京都エル・コープ）「官僚支配の超え方」

グループ・ディスカッション

- 19:15- 懇親会（場所：3号館7階 3714号教室・会費：3000円）

第2日目：11月17日（日）受付開始8：30

- **9:00-11:30 セッション4 「政策提言型会員公募セッション」**

司会：新川達郎（同志社大学教授）

報告者1：金奈英（筑波大学大学院博士後期課程）「政治体制変化に伴う経路依存過程の制度分岐の考察-町内会・部落制度を中心に-」。

報告者2：尾形清一（名古屋大学研究員）「再生可能エネルギー事業における科学的不確実性と社会的合意形成の課題-風力事業のバードストライク問題を中心にして-」

報告者3：吉田龍太郎（慶応大学大学院博士後期課程）「政党再編と政策対立軸の模索-保守合同反対論とその後の日本政治-」

報告者4：西田 昌之（国際基督教大学研究員）「津波復興住宅における生活再編の格差-タイ国パンガー県タクワパー郡の事例-」

討論者1：森裕亮（北九州市立大学准教授）

討論者2：田浦健郎（NPO 法人気候ネットワーク事務局長）

討論者3：今村浩（早稲田大学教授）

討論者4：新川達郎（同志社大学教授）

- 11:30-12:15 昼食（3号館7階 3714号教室）・ポスターセッション（3号館7階エレベーターホール）

- 12:15-13:30 基調講演

布野修司（建築家・滋賀県立大学教授）「地域再生とコミュニティ・アーキテクト」

司会：中村知子（茨城キリスト教大学兼任講師）

- 13:30-13:45 休憩

- 13:45-16:00 セッション5 「生存環境と政治社会」

司会：佐藤 洋一郎（京都産業大学教授）

報告1：松久寛（京大名誉教授/社団法人縮小社会研究会代表理事）「縮小社会への道」

報告2：宮北隆志（熊本学園大学教授/水俣現地研究センター長）「環境破壊を経験した地域社会の再構築のための新たな統治と『水俣学』」

報告3：森壮一（文部科学省研究開発局）「フューチャー・アース構想の理念と成立過程」

グループ・ディスカッション

- 16:00 閉会の辞 原田博夫（ASPOS 理事長・専修大学教授）

ポスターセッション

日時 11月16日（土）11:40-12:30・11月17日（日）11:30-12:15

場所 3号館7階 エレベーターホール

報告1：アイスン・ウヤル（同志社大学助教） 「Science-Society Interface for Global Change and Sustainability Issues in Asia」

報告者2：村上沙保里（同志社大学大学院博士後期課程） 「公害と環境教育—公害資料館関係性へのヒアリングを通じて—」

報告者3：丸山聡子（同志社大学大学院博士後期課程） 「自治体とのパートナーシップによる実践型環境教育の展開」

報告者4：小田切康彦（同志社大学助教）「地方自治体における震災避難者支援策の実態とその形成過程：長野県及び北九州市の実例から」

報告者5：切東美子（同志社大学大学院博士後期課程）「医師の進路選択に影響を与える要因と医師不足について」

報告者6：切東美子・明神悟（オージス総研）「電鉄沿線の活性化(安心、安全のライフサポートネットワークの構築に向けて)」

報告者7：梅津庸成（新時代戦略研究所）「911 後の変革期における防衛力整備の在り方検討に関する経緯とその現代的意義」

【グループ・ディスカッションについて】

この研究大会から、出席者全員が各セッションに参加したうえで、各テーマについての認識を深め、発言を促す観点から、GD（グループ・ディスカッション）方式を取り入れることとしました。GD方式導入の趣旨は研究大会で会員相互の情報交換と発言の機会を高めることが狙い입니다。

■GD方式の概要

- 1、セッションテーマと報告内容に即して、GDを約60分間行う。
- 2、GDは約5人単位で構成する。
- 3、グループ分けは、大会受付で行い、参加者は一日単位で同グループに所属する。
- 4、セッションごとにくじ引きでグループリーダーを決める。但し、一度リーダーになった人はくじ引きに参加しない。
- 5、グループリーダーはGDの活発な運営が行われるよう努力する。また、最後にGDの内容を全体に簡単に報告する。

GD方式を学会に導入するのは恐らく日本の学会では初めての試みだと思います。大会参加者の活発な意見交換を企画した今回の学会をご期待ください。また、学会当日、GD参加マニュアルとGD評価にまた、学会当日、GD参加マニュアルとGD評価に関するアンケートを配布します。

【宿泊案内】

ご宿泊予定の方々は、ご自身での手配をお願い致します。千里金蘭大学の周辺の主なホテル（千里阪急ホテル、クリスタルホテル南千里）は、本日（9/30）確認したところすでに満室でしたので、千里金蘭大学へのアクセスが良いJR 新大阪駅やJR 大阪駅（梅田）、あるいは阪急千里線周辺のホテルへのお泊まりを推薦致します。

また、千里金蘭大学までは、阪急千里線「北千里駅」からは徒歩で約10分、地下鉄御堂筋線「千里中央駅」からは阪急バスで約10分となっておりますので、お間違えのないようお気をつけ下さい。

【アクセス】

千里金蘭大学 3号館7階 主会場：3717号室

〒565-0873 大阪府吹田市藤白台5丁目25-1

<http://www.kinran.ac.jp/access/access.html>



メインキャンパス 路線図・所要時間



各交通機関からのアクセス

阪急電鉄

- 阪急千里線「北千里駅」下車。徒歩約 10 分。

地下鉄

- 御堂筋線「千里中央駅」下車。阪急バスで約 10 分。
- 堺筋線から乗り入れて阪急千里線「淡路駅」経由、「北千里駅」下車。徒歩約 10 分。

大阪モノレール

- 大阪モノレール「山田駅」下車。阪急千里線に乗り換えて「北千里駅」下車。徒歩約 10 分。

新幹線

- JR「新大阪駅」下車。地下鉄御堂筋線に乗り換えて「千里中央駅」下車。阪急バスで約 10 分。

会員による著作出版

荒木義修会員

1. 제1-2장 ‘프로그램(설계)과학’과 문리융합의 진화론적 접근 [訳：荒木義修「‘프로그램(設計)科学’と文理融合の進化論的接近」第1-2章]

(所収文献)

한국사회과학협의회 (편). 융합 연구, 왜 그리고 어떻게 할 것인가. 법문사, 2013. 12. 30(예정) [訳：韓国社会科学協議会(編)『融合研究、なぜ、そしてどのように行うべきか』法文社、2013.12.30 刊行予定]

2. 인문학 및 사회/자연과학 연구자들의 협동에 의한 학제연구의 현황과 과제: 일본 지구연구소의 ‘오아시스 프로젝트’ 사례 [訳：中尾正義「文系と理系の研究者の協働による学際的研究の現状と課題—地球研オアシスプロジェクトの事例から—」(『政治社会論叢』創刊号所収論文)]

編集後記

学会の第3号のニュースレターの発刊となりました。今回のニュースレター発刊に際しましては、三石先生、井上夏樹様、その他諸先生方には色々ご指導・ご協力を賜りました。この場をお借りし心より御礼申し上げます。まだまだ至らない点があるかと思えます。皆様から何かご意見・ご要望があればいつでもご連絡下さい。お待ちしております。

(酒井英一 広報委員長)

ASPOS Newsletter [政治社会学会 (ASPOS) 会報]

No. 3 (2013年10月11日発行)

発行人：原田博夫 (理事長)

編集人：酒井英一 (広報委員長)

E-mail: sakaihk@kansai.ac.jp

ASPOS Newsletter

政治社会学会（ASPOS）会報



No. 3, (October, 2013)

理事長あいさつ

理事長 原田 博夫（専修大学）

2012年11月に、第2代理事長となりました。初代理事長である荒木義修（武蔵野大学教授）先生のように、学識と経験、先見性をもって学会運営ができる自信はありませんが、本学会の設立時の先駆性・方向性と志を忘れずに、役目を果たしたいと思います。会員の皆様のさらなるご協力をお願いする次第です。

本学会はそもそも、文理融合で、学際的（inter-disciplinary）あるいは超学的（trans-disciplinary）な問題意識と切り口を特徴としています。創立年の秋に開催された創立研究大会（2010年10月、早稲田大学）以来、この問題意識は継続しており、この視点は今後も忘れてはならないと思います。

とりわけ、総合的な認識の必要性・重要性は、2011年3月11日の東日本大震災を経験したことで、明白になったと思います。地震、津波、原発事故への連動・波及・衝撃は、日本社会全体のあらゆる分野に及んでいます。個々の自然現象の冷静な分析は必要ですが、それらが孤立しては、せっかくの蓄積が活かされません。各自然現象認識の共有化とそのすり合わせが必要です。さらには、社会的記憶や伝承などの文献記録の冷静かつ客観的な解明や蓄積も重要です。そしてそれらの自然現象解析とのつき合わせも見逃してはなりません。加えて、こうした緊急事態における政府・自治体の判断・決定・責任の事前想定が不可欠だけでなく、それを恒常的にチェックする見直し・改善プロセスも備えてはなりません。要するに、社会や自然の非常事態への行政の対応策は総合的でなくてはならない様に、研究者の側も、それぞれの分野の研究に没頭して自己満足しては、肝心の社会的ニーズが出現したときにおろおろと右往左往するばかりで、適切な処方箋につながる分析や解析を具体的に提示すること

ができません。われわれの研究は、平時の安定的な均衡状態だけを精緻に前提・分析の対象とするのではなく、緊急の不連続状態への適応をも見据えた幅広さと強靭さを待たなくてはならないのです。

本学会の会員は、既存のすでに確立した学問体系に安住することなく、新規の分野や手法などに果敢に打破する気持ちを秘めているはずです。本学会は、こうしたチャレンジングな問題意識と精神を共有することで、現在の安定的な社会構造の中で容易に認識のおよばない現象の解明を進めると同時に、現時点では簡単に予見できない事態への備えにも取り組みたいと思います。会員の皆様の勇気ある挑戦に期待します。

政治社会学会(ASPOS)第4回総会及び研究大会

2013年11月16日(土)・17日(日)

千里金蘭大学 3号館7階

主会場：3717号室

〒565-0873 大阪府吹田市藤白台5丁目25-1

2013年11月16日(土)－17日(日)に千里金蘭大学(阪急千里線「北千里駅」下車、徒歩約10分。御堂筋線「千里中央駅」下車。阪急バスで約10分。詳しくはこちらをご覧ください。<http://www.kinran.ac.jp/access/access.html>)にて政治社会学会(ASPOS)第4回総会及び研究大会を開催いたします。只今開催校及び諸先生方のご尽力をいただき準備をすすめておりますが、準備の関係上皆様に研究大会ご参加の可否を伺いたく存じます。

また、今回の会場近くには昼食を取る場所がないため、ご希望の方には昼食(約700円)を準備いたします。そのほか16日土曜日19:15より、懇親会(会費3000円、場所:千里金蘭大学3号館7階)も開催される予定です。奮ってご参加ください。

政治社会学会理事長 原田博夫

政治社会学会(ASPOS)第4回総会及び研究大会 プログラム

政治社会学会(ASPOS)第4回総会及び研究大会のプログラムが以下の様に出来上がりましたので、ご報告させていただきます。

第1日目：11月16日(土) 受付開始8:30

- 9:00 **開会の辞** 原田博夫 (ASPOS 理事長・専修大学教授)

- 9:10-11:40 **セッション1「社会デザインと政策実践」**
司会：奥井克美 (追手門大学院大学教授)
報告者1：三石博行 (千里金襴大学教授)「設計科学としての政策学基礎論・生活資源論」
報告者2：水垣源太郎 (奈良女子大学准教授)「An Interdisciplinary CBPR for Sustainable Agriculture: Its Challenges and Prospects」
報告者3：山口薫 (同志社大学教授)「シカゴプランによる新社会デザイン」
グループ・ディスカッション

- 11:40-12:30 **昼食** (3号館7階 3714号教室)・**理事会** (3号館7階 3712号教室)・**ポスターセッション** (3号館7階エレベーターホール)

- 12:30-13:00 **総会**

- 13:00-15:30 **セッション2「教育と政治社会」**
司会：石生義人 (国際基督教大学教授)
報告者1：柳平彬 (グループダイナミックス研究所所長)「“教育”基本法の中心に“志(こころざし)”を」
報告者2：森裕城 (同志社大学教授)「日本における新自由主義的教育改革の政治社会学的考察」
報告者3：河村能夫 (龍谷大学名誉教授・元副学長)「グローバル化時代における日本の大学改革と高等教育の社会的責務：京都における大学改革の経験から」

グループ・ディスカッション

- 15:30-15:45 休憩

- **15:45-16:45 基調講演**

荒木義修（ASPOS 会長・武蔵野大学教授）「神なき後の社会秩序と進化論：言語、恣意的約束事、遺伝子」

司会：油川洋（作新学院大学特任教授）

- **16:45-19:15 セッション3 「社会デザインと民主主義」**

司会：伊藤公雄（京都大学教授）

報告者1：住沢博紀（日本女子大学教授）「ドイツにおける民主主義」

報告者2：濱西栄司（ノートルダム清心女子大学専任講師）「自由空間と三つのデモクラシー-アクターの連携と新たな社会デザイン-」

報告者3：境毅（生活クラブ京都エル・コープ）「官僚支配の超え方」

グループ・ディスカッション

- 19:15- 懇親会（場所：3号館7階 3714号教室・会費：3000円）

第2日目：11月17日（日）受付開始8：30

- **9:00-11:30 セッション4 「政策提言型会員公募セッション」**

司会：新川達郎（同志社大学教授）

報告者1：金奈英（筑波大学大学院博士後期課程）「政治体制変化に伴う経路依存過程の制度分岐の考察-町内会・部落制度を中心に-」。

報告者2：尾形清一（名古屋大学研究員）「再生可能エネルギー事業における科学的不確実性と社会的合意形成の課題-風力事業のバードストライク問題を中心にして-」

報告者3：吉田龍太郎（慶応大学大学院博士後期課程）「政党再編と政策対立軸の模索-保守合同反対論とその後の日本政治-」

報告者4：西田 昌之（国際基督教大学研究員）「津波復興住宅における生活再編の格差-タイ国パンガー県タクワパー郡の事例-」

討論者1：森裕亮（北九州市立大学准教授）

討論者2：田浦健郎（NPO 法人気候ネットワーク事務局長）

討論者3：今村浩（早稲田大学教授）

討論者4：新川達郎（同志社大学教授）

- 11:30-12:15 昼食（3号館7階 3714号教室）・ポスターセッション（3号館7階エレベーターホール）

- 12:15-13:30 基調講演

布野修司（建築家・滋賀県立大学教授）「地域再生とコミュニティ・アーキテクト」

司会：中村知子（茨城キリスト教大学兼任講師）

- 13:30-13:45 休憩

- 13:45-16:00 セッション5 「生存環境と政治社会」

司会：佐藤 洋一郎（京都産業大学教授）

報告1：松久寛（京大名誉教授/社団法人縮小社会研究会代表理事）「縮小社会への道」

報告2：宮北隆志（熊本学園大学教授/水俣現地研究センター長）「環境破壊を経験した地域社会の再構築のための新たな統治と『水俣学』」

報告3：森壮一（文部科学省研究開発局）「フューチャー・アース構想の理念と成立過程」

グループ・ディスカッション

- 16:00 閉会の辞 原田博夫（ASPOS 理事長・専修大学教授）

ポスターセッション

日時 11月16日（土）11:40-12:30・11月17日（日）11:30-12:15

場所 3号館7階 エレベーターホール

報告1：アイスン・ウヤル（同志社大学助教） 「Science-Society Interface for Global Change and Sustainability Issues in Asia」

報告者2：村上沙保里（同志社大学大学院博士後期課程） 「公害と環境教育—公害資料館関係性へのヒアリングを通じて—」

報告者3：丸山聡子（同志社大学大学院博士後期課程） 「自治体とのパートナーシップによる実践型環境教育の展開」

報告者4：小田切康彦（同志社大学助教）「地方自治体における震災避難者支援策の実態とその形成過程：長野県及び北九州市の実例から」

報告者5：切東美子（同志社大学大学院博士後期課程）「医師の進路選択に影響を与える要因と医師不足について」

報告者6：切東美子・明神悟（オージス総研）「電鉄沿線の活性化(安心、安全のライフサポートネットワークの構築に向けて)」

報告者7：梅津庸成（新時代戦略研究所）「911 後の変革期における防衛力整備の在り方検討に関する経緯とその現代的意義」

【グループ・ディスカッションについて】

この研究大会から、出席者全員が各セッションに参加したうえで、各テーマについての認識を深め、発言を促す観点から、GD（グループ・ディスカッション）方式を取り入れることとしました。GD方式導入の趣旨は研究大会で会員相互の情報交換と発言の機会を高めることが狙い입니다。

■GD方式の概要

- 1、セッションテーマと報告内容に即して、GDを約60分間行う。
- 2、GDは約5人単位で構成する。
- 3、グループ分けは、大会受付で行い、参加者は一日単位で同グループに所属する。
- 4、セッションごとにくじ引きでグループリーダーを決める。但し、一度リーダーになった人はくじ引きに参加しない。
- 5、グループリーダーはGDの活発な運営が行われるよう努力する。また、最後にGDの内容を全体に簡単に報告する。

GD方式を学会に導入するのは恐らく日本の学会では初めての試みだと思います。大会参加者の活発な意見交換を企画した今回の学会をご期待ください。また、学会当日、GD参加マニュアルとGD評価にまた、学会当日、GD参加マニュアルとGD評価に関するアンケートを配布します。

【宿泊案内】

ご宿泊予定の方々は、ご自身での手配をお願い致します。千里金蘭大学の周辺の主なホテル（千里阪急ホテル、クリスタルホテル南千里）は、本日（9/30）確認したところすでに満室でしたので、千里金蘭大学へのアクセスが良いJR 新大阪駅やJR 大阪駅（梅田）、あるいは阪急千里線周辺のホテルへのお泊まりを推薦致します。

また、千里金蘭大学までは、阪急千里線「北千里駅」からは徒歩で約10分、地下鉄御堂筋線「千里中央駅」からは阪急バスで約10分となっておりますので、お間違えのないようにお気をつけ下さい。

【アクセス】

千里金蘭大学 3号館7階 主会場：3717号室

〒565-0873 大阪府吹田市藤白台5丁目25-1

<http://www.kinran.ac.jp/access/access.html>



メインキャンパス 路線図・所要時間



各交通機関からのアクセス

阪急電鉄

- 阪急千里線「北千里駅」下車。徒歩約 10 分。

地下鉄

- 御堂筋線「千里中央駅」下車。阪急バスで約 10 分。
- 堺筋線から乗り入れて阪急千里線「淡路駅」経由、「北千里駅」下車。徒歩約 10 分。

大阪モノレール

- 大阪モノレール「山田駅」下車。阪急千里線に乗り換えて「北千里駅」下車。徒歩約 10 分。

新幹線

- JR「新大阪駅」下車。地下鉄御堂筋線に乗り換えて「千里中央駅」下車。阪急バスで約 10 分。

会員による著作出版

荒木義修会員

1. 제1-2장 ‘프로그램(설계)과학’과 문리융합의 진화론적 접근 [訳：荒木義修「‘프로그램(設計)科学’と文理融合の進化論的接近」第1-2章]

(所収文献)

한국사회과학협의회 (편). 융합 연구, 왜 그리고 어떻게 할 것인가. 법문사, 2013. 12. 30(예정) [訳：韓国社会科学協議会(編)『融合研究、なぜ、そしてどのように行うべきか』法文社、2013.12.30 刊行予定]

2. 인문학 및 사회/자연과학 연구자들의 협동에 의한 학제연구의 현황과 과제: 일본 지구연구소의 ‘오아시스 프로젝트’ 사례 [訳：中尾正義「文系と理系の研究者の協働による学際的研究の現状と課題—地球研オアシスプロジェクトの事例から—」(『政治社会論叢』創刊号所収論文)]

編集後記

学会の第3号のニュースレターの発刊となりました。今回のニュースレター発刊に際しましては、三石先生、井上夏樹様、その他諸先生方には色々ご指導・ご協力を賜りました。この場をお借りし心より御礼申し上げます。まだまだ至らない点があるかと思えます。皆様から何かご意見・ご要望があればいつでもご連絡下さい。お待ちしております。

(酒井英一 広報委員長)

ASPOS Newsletter [政治社会学会 (ASPOS) 会報]

No. 3 (2013年10月11日発行)

発行人：原田博夫 (理事長)

編集人：酒井英一 (広報委員長)

E-mail: sakaihk@kansai.ac.jp